



RC報告書 2019

Responsible Care Report



中国化薬株式会社

目次

	頁
会社概要	2
ごあいさつ	3
環境・安全の理念と基本方針およびR Cに関する方針	4
R C活動推進体制	5
R C活動の実施状況	
2018年度R C活動の目標・実績・評価	6
R C活動への取組	
マネジメントシステム	7
環境・安全査察	
R C内部監査	
ISO14001外部審査	
環境保全	9
主な環境負荷（2018年度実績）	
環境投資	
省エネルギー、CO ₂ 排出量削減	
化学物質の排出量削減（P R T R）	
大気汚染、水質汚濁の防止	
産業廃棄物の削減	
保安防災	13
保安防災訓練	
保安防災投資	
労働安全衛生	14
労働安全衛生活動	
健康管理	
物流安全	15
化学品・製品安全	
化学品・製品による災害の防止	
製品の安全確保と品質保証	
関係者への環境・安全情報の提供	
サイト環境活動	16
江田島工場の活動	
吉井工場の活動	

表紙写真説明



「江田島工場正門早朝（日の出）写真」

江田島工場にて、4月初旬の快晴の早朝、正門から見た日の出の風景です。右手に工場の象徴である戦艦大和の砲弾、その横にオリーブの木が植えられています。

沖合にはカキ筏が浮かんでおり、早朝のため、船の往来は少なく、のどかな佇まいを漂わせています。

撮影者：山口 正（江田島工場）

撮影月：2019年4月

会社概要

- 【社名】 中国化薬株式会社
- 【資本金】 297百万円
- 【創業】 1947年（昭和22年）3月28日
- 【売上高】 93億円（2018年度）
- 【本社】 〒737-8507
広島県呉市天応塩谷町1番6号
- 【事業拠点】 本社（広島県）、東京支店
江田島工場（広島県）
吉井工場（群馬県）
- 【従業員】 471名（2019年8月1日現在）
- 【主な営業種目】 防衛火工品、産業火薬品、工業製品、
医薬品の製造及び販売



RC活動対象組織

本社、東京支店、江田島工場、吉井工場

※環境負荷データの集計対象：江田島工場、吉井工場

対象期間

2018年4月21日～2019年4月20日

(一部2019年4月21日以降の情報を含みます)

RC（レスポンシブル・ケア）とは

「化学物質を製造し、または取り扱う事業者が、自己決定・自己責任の原則に基づき、化学物質の開発から製造、流通、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ライフサイクルにわたって、環境・安全・健康を確保することを経営方針において公約し、そのための施策を実行し、改善を図って行く自主管理活動」のことです。

ごあいさつ

昨年7月の西日本豪雨災害では、当社江田島工場も被害を受けました。その際には、多くの方々からご支援をいただき、心より感謝申し上げます。お陰をもちまして生産計画に大きな支障をきたすことなく、被害を受けた施設、設備につきましても復旧を完了することができました。

当社は火薬類の製造を基幹とした化学工業分野の事業を営んでいます。火薬類の製造や取扱いを行う企業にとって、安全の確保と保安防災の徹底は経営の最重要課題であるとともに、社会に対する責任であると考えて、安全の更なる向上を目指し、真摯に取り組んできました。

「安全は全てに優先する」、「環境保全は企業の責務である」との理念を掲げ、すべての事業活動においてこれらの実践に努めています。

このような活動を計画的、効果的に実施していくため、2003年5月に日本レスポンシブル・ケア協議会（現：日本化学工業協会RC推進部）に入会し、RC活動を開始しました。2004年には、環境マネジメントシステム（ISO14001）の認証を取得しました。環境保全、保安防災、労働安全衛生、物流安全、化学品・製品安全、社会との対話に積極的に取り組み、成果をあげています。

2018年度は「リスクを先取りし、保安力を向上させる」というRC年度方針のもと、リスクに対する事前対策により災害や異常を未然に防止する活動を行いました。保安防災面では、ヒューマンエラー防止のために指差呼称の定着を図るとともに、災害に備えた防災計画の見直しやBCP（事業継続計画）への取組を行いました。また、管理職による職場巡視の強化、作業前教育及び5Sの徹底を行い、より一層の安全意識高揚を図りました。環境保全面では、新廃液燃焼装置の順調な稼働継続、照明器具のLED化を行い、エネルギー削減に効果をあげました。衛生管理面では、作業環境向上のための施設や設備の改善、作業者の健康を考慮した保護具の適正化に取り組みました。

報告書は、2018年5月度から2019年4月度までの1年間の活動についてまとめています。

ご一読いただき、皆様からのご意見ご感想をお寄せいただければ幸いに存じます。



2019年9月

代表取締役社長 神津直

経営の信條

- 一、火薬類の製造を基幹とし化学工業を行う。この作業は危険あり然も大なる利潤は期待し得ないが誰かが担当せねばならぬ重要な仕事である。我社は之を安全に遂行する事を誇りと観じ本事業を通じて国家の進運に貢献しつつ社運の発展を期す。
- 一、全従業員が一致団結して各その配置に於いて任務を楽しく遂行し以って自己のこの世に生を享けた喜びを満喫できる会社とする。

環境・安全の理念と基本方針及びR Cに関する方針

環境の理念

「環境保全は企業の責務である」

地球環境を保全し、地域社会との共存共栄を図ることが企業の重要な使命であることを認識し、企業活動のすべての面で人と環境に調和した活動を行う。

環境の基本方針

1. 「環境への配慮は企業の使命である」を基本に行動する。
2. 環境マネジメントシステムの構築と継続的改善を図る。
3. 教育訓練による全従業員の環境意識の向上を図る。

安全の理念

「安全は全てに優先する」

企業の使命を守り、今後とも健全な形で存続していくためには、心身ともに安心して働ける職場であること、また安全を保つことにより、地域社会と調和を保つことが大前提である。

安全の基本方針

1. 安全の確保は企業存立の基盤である。
2. 「全ての事故は防止できる」との信念のもとに安全を確保する。
3. 安全は自分自身のためであり、「定められた事は必ず守る」を基本に行動する。

R Cに関する方針（2012年7月改訂）

中国化薬株式会社は、環境保全及び安全と健康の確保が企業の責務であることを認識し、以下のとおり方針を定め、着実かつ継続的にR C活動を行う。

（1）目標・方策の明確化と周知徹底

環境保全及び安全と健康の確保のための活動を継続的に向上させるため、具体的な目標、方策を「R C活動中期計画」及び「年度R C活動実施計画書」に定めて全社員に周知徹底する。

（2）環境負荷の低減

全製品ライフサイクルにおいて環境負荷の少ない業務を推進するため、廃棄物排出量削減、省資源・省エネルギー活動の推進、有害化学物質使用量の最小化を行う。

（3）保安防災水準の向上

事業活動における火薬事故、火災、環境事故等を防止するため、災害未然防止活動の推進、安全教育の徹底、基盤整備・維持活動の継続を行う。

（4）労働安全衛生水準の向上

事業活動における労働災害、健康被害を防止するため、労働災害未然防止活動の推進、安全衛生教育の徹底、快適職場づくりの推進を行う。

（5）物流安全水準の向上

物流中の事故、災害を防止するため、物流事故・災害防止活動の推進、物流安全教育を行う。

（6）化学物質・製品の安全性確保

化学物質や製品の物流、使用、廃棄等における事故・災害を防止するため、リスクマネジメントによる先手管理を行う。また、取り扱う全ての化学物質と製品の最新の安全情報を収集・整備し、必要に応じてこれらの情報を関係先に提供する。

（7）社会からの信頼向上

社会との共存共栄をはかるため、国際規則、国内関係法令及び社内規則類の遵守はもとより、環境・安全に関する社会の要請を把握し、事業活動に反映させる。また、環境・安全に関する取組について社会との対話に努める。

RC活動推進体制

会議体

■ RC委員会

委員長は社長、委員は役員で構成されるRC活動に関する最高意思決定機関です。ここでは、環境・安全・衛生管理に関する基本施策等の審議を行っています。（年2回開催）

■ RC小委員会

委員長は統括管理責任者（環境安全担当役員）、委員は工場長、安全担当役員補佐、安全環境管理室長、火薬類製造保安責任者で構成されています。ここではRC委員会から指示を受けた事項の細部検討、環境・安全・衛生管理に関する詳細な検討を行っています。（年2回開催）

■ RC推進委員会

委員長は工場長、委員は各課の課長で構成されています。ここでは、RC委員会及びRC活動中期計画で決められた目標及び方策に従って具体的な計画を定めてRC活動を推進しています。

■ 環境保全委員会

委員長は工場長、委員は各部課長及び環境関連選任管理者で構成されています。環境マネジメントシステム（ISO14001）の円滑な運用を目的として設置されています。工場全体の環境目標の決定、また環境活動の適切性・有効性の審議、見直しを行っています。

目標・計画

■ RC活動中期計画書

RC活動に関する方針を具体的に推進するために、当年度を含む3年間の目標、方策及び実施項目を定めた計画書です。作成は統括管理責任者が行い、RC委員会での審議・承認を経て設定されます。年度毎に見直しを行い、更新しています。

■ RC活動実施計画書／報告書

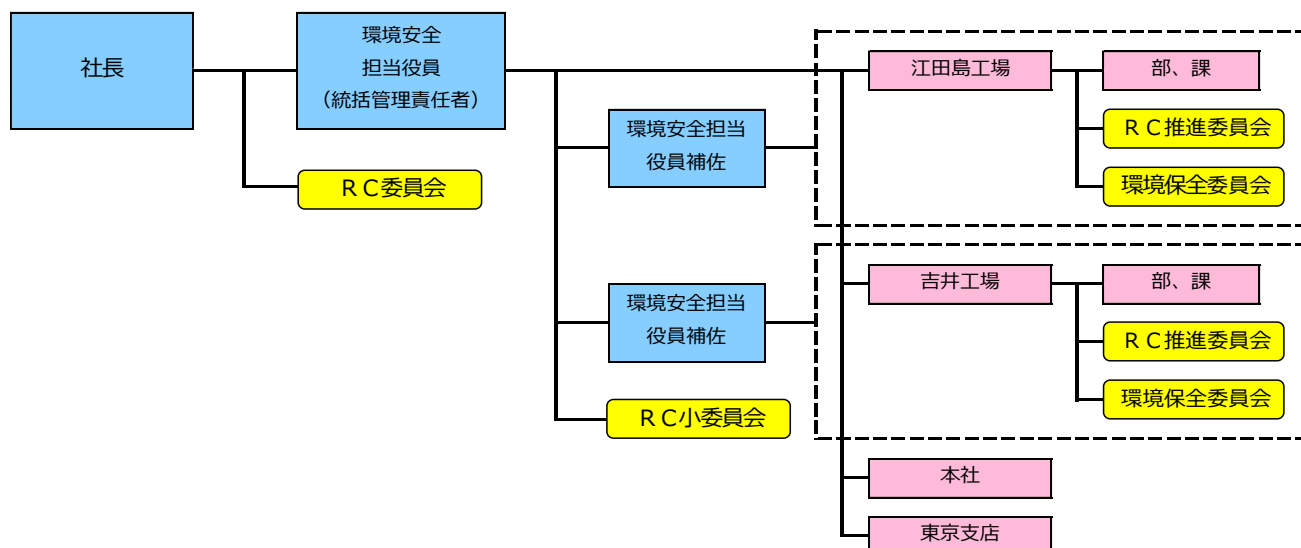
「RC活動中期計画書」をもとに年度の具体的な実施項目及び目標を定めた計画書と、その結果に関する報告書です。各工場、事業所毎に作成し、これによりRC活動の進捗管理が行われています。

点検・監視

RC活動の実施状況は、以下の査察、監査等によって点検・監視を行っています。

- ・ 社長環境・安全査察
- ・ 統括管理責任者査察
- ・ RC内部監査
- ・ 環境マネジメントシステム内部監査
- ・ 環境マネジメントシステム外部審査

RC活動の組織図



RC活動の実施状況

2018年度RC活動の目標・実績・評価

【自己評価】○：達成（95%以上）、△：一部達成（95～80%以上）、×：未達成（80%未満）

RCコード	項目	2018年度目標	2018年度実績	自己評価
1.マネジメントシステム 共通事項	RC委員会開催	RC委員会・小委員会開催（4回）	4回（7月、9月、12月、3月）	○
	査察・監査	社長環境・安全査察（2回）	2回（10月、4月）	○
		RC内部監査（1回）	1回（2月）	○
	緊急事態への対応	総合消防訓練（1回）	1回（本社：4月、江田島：10月、吉井：11月、東京：11月）	○
		緊急注水装置操作訓練（9件：吉井）	9件（10月～4月の間）	○
	防火訓練（各地区隊）（7回：江田島）	7回（江田島）	○	
2.環境保全	有害物漏洩	危険物・有毒物・未処理廃液等の海又は河川への流出による環境問題・事故ゼロ	0件	○
	省エネルギー推進 （I社単-原単位低減）	江田島・吉井の両工場合計で3,618kℓ（原油換算）以下	江田島・吉井の両工場合計で3,543kℓ（原油換算）	○
3.保安防災	事故・災害の防止	火災、危険物、毒劇物に関する事故ゼロ	0件	○
4.労働安全衛生	従業員の安全衛生管理	労働災害（休業災害）ゼロ	1件	×
5.物流安全	物流事故撲滅	場内物流事故ゼロ	0件	○
		輸送業者への保安教育の実施	2回実施（火薬類の運搬を委託している各業者に実施 江田島11月、吉井8月）	○
6.化学品・製品安全	製品・化学物質の管理	SDSの整備及び顧客への配布の実施	SDS整備・配布率 100%	○
		新規化学物質に対するリスクアセスメントの実施	実施率 100%	○
7.社会との対話	社会とのコミュニケーション	行事計画；本社11回、江田島11回、吉井19回	行事実績；本社12回、江田島11回、吉井18回	○

レスポンシブル・ケアコード（RCコード）

レスポンシブル・ケアを実践する際の基本的実施事項を定めたもので、以下の7つのコードに分類されています。

- 1) マネジメントシステム（以下の6つの活動をシステムとして統一的に運用することにより効率的に推進する。）
- 2) 環境保全（化学物質の排出量並びに発生量を継続的に低減させることにより環境・安全の向上を図る。）
- 3) 保安防災（事業所の火災、爆発及び化学物質流出事故を防止する。）
- 4) 労働安全衛生（労働災害の撲滅、潜在的危険性の低減、快適職場の形成により職場の安全衛生を向上する。）
- 5) 物流安全（従業員、輸送業者等並びに環境に影響を及ぼす化学品の流通時のリスクを軽減する。）
- 6) 化学品・製品安全（製品の全ライフサイクルに渡ってリスクを管理する。）
- 7) 社会との対話（環境・安全・健康にかかわる情報を地域社会に提供する。）

RC活動への取組

マネジメントシステム

環境・安全査察

環境・安全に関するRC活動が計画通りに行われ効果を上げているかを確認するため、社内規則類に基づいて社長による定期査察と統括管理責任者（環境安全担当役員）による査察を実施しています。査察では活動をよりよくするための指摘を行い、計画を立てて是正、改善することによって環境・安全の向上を図っています。



社長環境・安全査察
(江田島工場)

2018年度は以下のように実施されました。

■ 社長環境・安全査察

2018年10月（江田島工場、吉井工場）

2019年4月（江田島工場、吉井工場）

■ 統括管理責任者査察

5回（江田島工場）、1回（吉井工場）



社長環境・安全査察
(吉井工場)

RC内部監査

（一社）日本化学工業協会RC委員会の監査指針に基づき、全事業所を対象として統括管理責任者を責任者とするチームで実施しています。



RC内部監査
(江田島工場)



RC内部監査
(吉井工場)

監査結果は次年度のRC計画の目標等に反映させてRC活動の継続的な向上を図っています。

ISO14001外部審査

江田島・吉井両工場とも環境マネジメントシステムISO14001を環境保全活動の運用ツールとして活用しています。その一環としてシステムの適合性、有効性を確認するために、認証機関による外部審査を継続的に受審しています。

なお認証範囲は右に示す通りです。

「認証機関：（公財）防衛基盤整備協会（BSK）」

【江田島工場】

化学薬品（ニトロ化合物）、火薬類及び医薬品（硝酸イソソルビド、ニコランジル）の設計・開発及び製造

【吉井工場】

宇宙ロケット用火工品の製造、防衛用火工品の設計・開発、製造、民需用火工品の製造、硝酸グアニジンの製造



江田島工場
(現場審査)



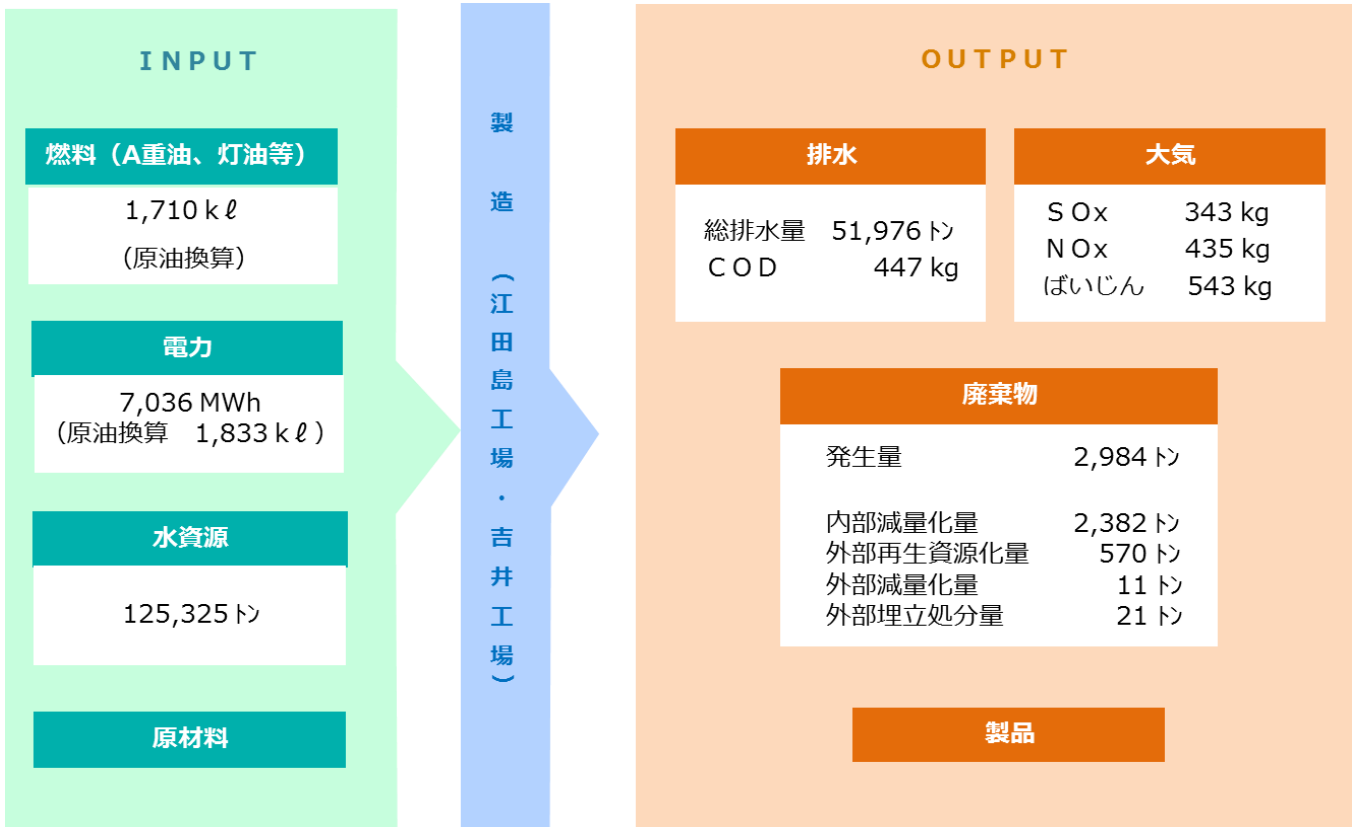
吉井工場
(現場審査)

RC活動への取組

環境保全

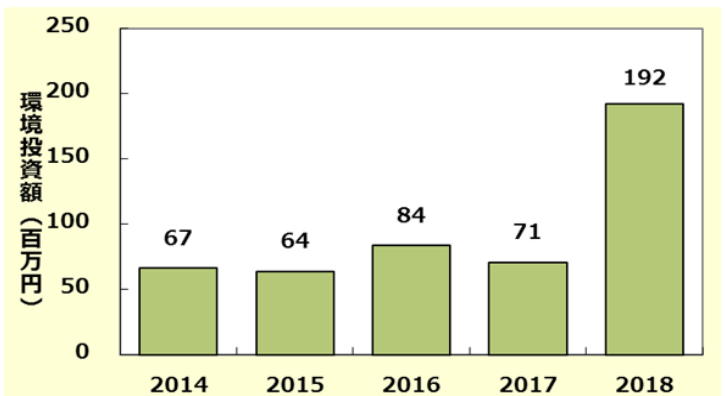
主な環境負荷（2018年度実績）

■事業活動による環境負荷



環境投資

環境保全のために継続的に投資を行っています。2018年度は売上高の2.1%でした。主なものは江田島工場では冷凍設備の省エネタイプへの更新、吉井工場では空調設備の省エネタイプへの更新、蒸気配管の更新等を行いました。



■2018年度 環境投資額内訳（百万円）

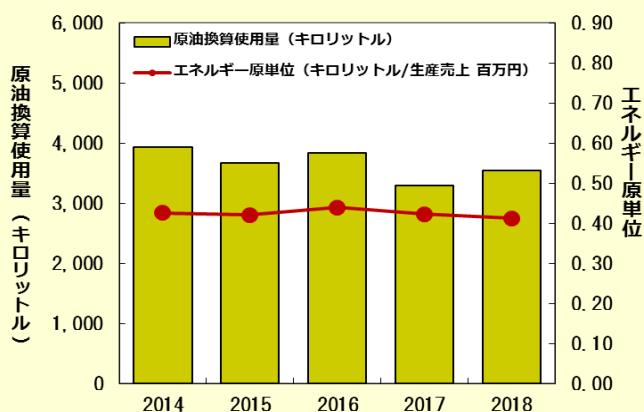
工場名称	環境投資内訳								投資額合計
	水質 公害対策	大気 公害対策	省エネ・CO ₂ 削減対策	産廃削減・ リサイクル対策	有害物質 排出削減	騒音・振動悪臭 公害対策	土壌・地下水 汚染対策	緑化対策 その他	
江田島工場	0.0	3.2	118.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	121.7
吉井工場	0.0	0.0	38.4	28.2	0.0	0.0	0.0	3.4	70.0
合計	0.0	3.2	156.9	28.2	0.0	0.0	0.0	3.4	191.7

省エネルギー・CO₂排出量削減

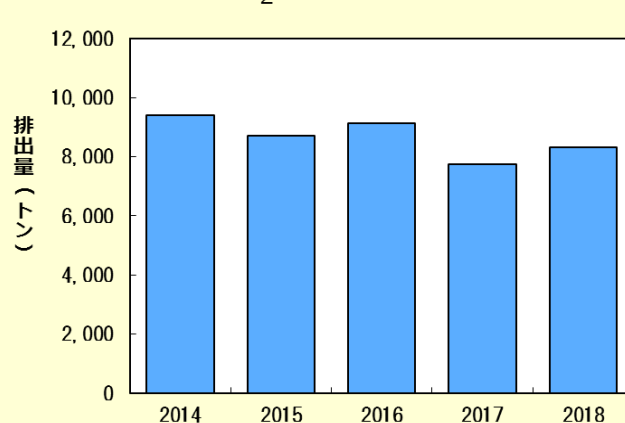
2014年度までの中長期計画が終了したことから、2015年度以降は新たに事業所ごとに目標を設定し省エネ活動に取り組んでいます。2018年度は空調設備やコンプレッサの省エネタイプへの更新による電気使用量の削減、蒸気配管の更新による重油使用量の削減等に取り組みました。また、新廃液燃焼装置を順調に稼働させ、エネルギー削減に効果を上げました。その結果、江田島・吉井両工場合計でエネルギー

使用量は3,543kℓ(原油換算)であり、目標値3,618kℓ以下を達成しました。当社が排出する温室効果ガスはほぼ全量が電気、重油等のエネルギーが起源のCO₂ですので、これらのエネルギー使用量を低減することで、温室効果ガス量を削減することができます。今後も様々な省エネ活動を行うことで、温室効果ガスの削減に取り組んでまいります。

エネルギー使用量及び原単位の推移



CO₂排出量の推移



化学物質の排出量削減 (P R T R)

P R T R法(特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律)に基づき調査及び届出を行っている該当物質は下記の3物質で昨年度と同じです。ダイオキシン類の排出については、社内での焼却量の減少及び焼却方法の改善により、前年と

同じ低いレベルに抑制できました。また、塗料用の溶剤や洗浄用のシンナーに成分として含まれているトルエンと製品原料として使用しているオルトニトロトルエンの排出量は2011年度以降同じです。

■ P R T R対象物質の2018年度排出量実績

政令指定番号	物質名称	排出量				移動量
		大気への放出	水域への放出	土壌への放出	計	
243	ダイオキシン類	0.002 mg-TEQ	0.000 mg-TEQ	0.000 mg-TEQ	0.002 mg-TEQ	0.038 mg-TEQ
300	トルエン	2.022 トン	0.000 トン	0.000 トン	2.022 トン	2.217 トン
315	オルトニトロトルエン	0.002 トン	0.000 トン	0.000 トン	0.002 トン	0.000 トン

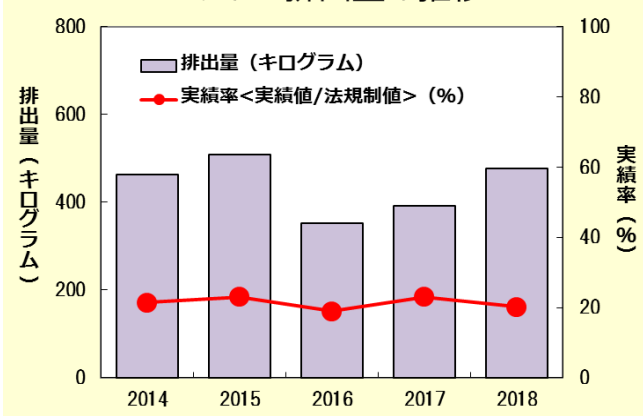
P R T R (Pollutant Release and Transfer Register : 環境汚染物質排出・移動登録)とは「有害性の恐れがある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どのくらい環境中(大気、水質、土壌)に排出されたか(排出量)、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたか(移動量)というデータを把握し、集計し、公表する仕組み」のことです。

大気汚染、水質汚濁の防止

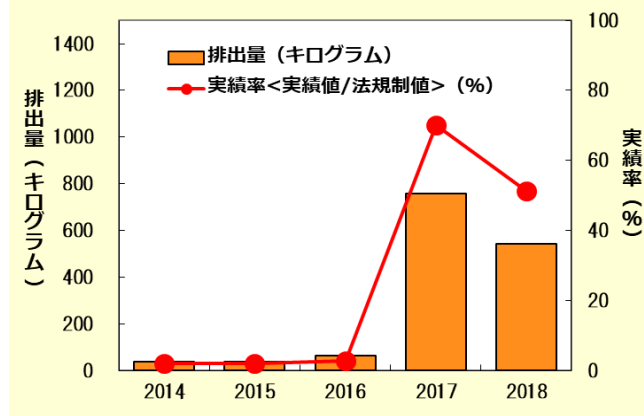
2018年度に大気及び排水中に排出された汚染物質は、いずれも法的規制値を大きく下回っています。2017年度のばいじんの排出量の増加は、廃液処理装置の吸収水ノズルの詰りの発生によるものでした。2018年度は、吸収水ノズルの洗浄によりやや改善されました。今後は、吸収水ノズルの洗浄方法の改善等により

、更なる低減対策に取り組んでいきます。イオウ酸化物（SO_x）は、法的規制値を大きく下回っていますが、2018年度には倍増しています。現在、原因を調査・検討しております。工場から排出される汚染源については今後も監視を継続し、現在の低い水準値を維持してまいります。

COD排出量の推移

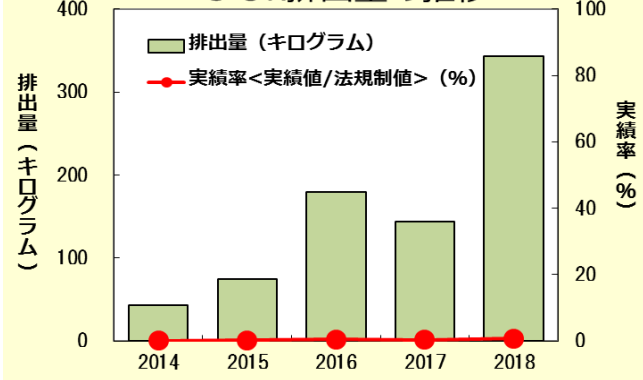


ばいじん排出量の推移

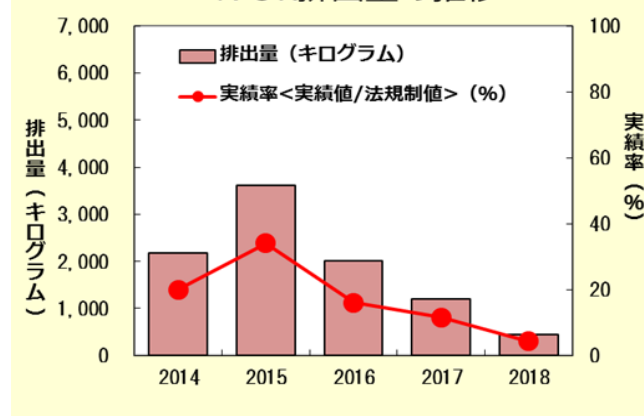


※2017年以降の法規制値：0.15g/m³N
 (2016年以前の法規制値：0.25g/m³N)

SO_x排出量の推移



NO_x排出量の推移



COD（化学的酸素要求量）とは

「有機物による水質汚濁の指数で、有機物を酸化剤で化学的に酸化するとき消費される酸素の量」のことで、数値が高いほど水の汚染度が高いことを示します。

産業廃棄物の削減

産業廃棄物については、2001年度に産業廃棄物削減活動を開始して以来、発生量の削減、再資源化量の向上、社外埋立量の削減に取り組んでいます。

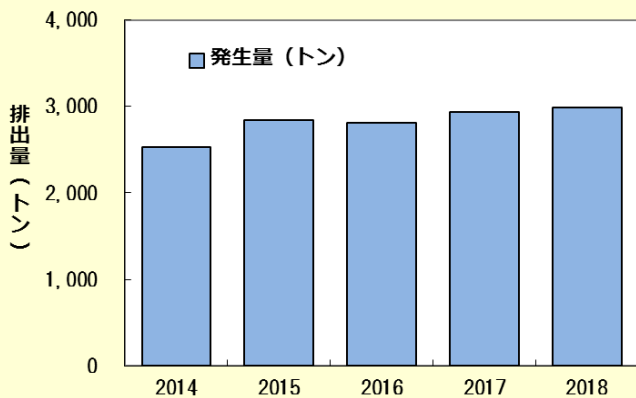
排出量の削減については「2010年度までに対2000年度比で75%の削減」を目標に活動を開始し、廃棄物の分別徹底、分別の細分化により再資源化率を向上させる活動によって2007年度に目標を達成しました。それ以降

は排出量を増やさないため、分別のより一層の細分化と徹底を行っています。2018年度は2000年度に比べて82.3%の削減となりました。

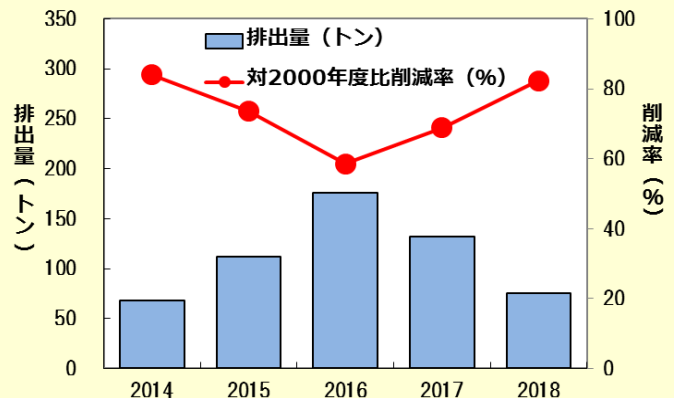
埋立処分量については2018年度は目標21トン以下に対して20.95トンで目標を達成することができました。今後も廃棄物の分別、再資源化活動を徹底し、埋立処分量の削減を継続していきます。

廃棄物の発生量、排出量、再生資源化（リサイクル）量及び外部（最終）埋立量の推移は下記の通りです。

廃棄物発生量の推移



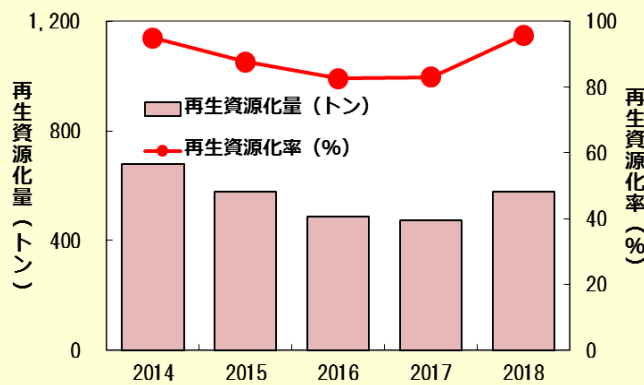
廃棄物排出量の推移



$$\text{削減率(対2000年度比)}(\%) = \frac{2000\text{年度排出量} - \text{当該年度排出量}}{2000\text{年度排出量}} \times 100$$

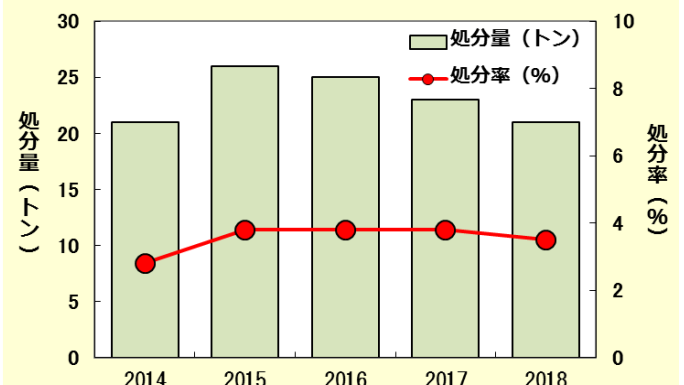
当社では「廃棄物排出量」を次のように定義して管理しています。
 ◆廃棄物排出量 = 廃棄物発生量 - (内部減量化量 + 外部再生資源化量)
 ◆内部減量化量とは、社内処理する廃棄物の量
 ◆外部再生資源化量とは、資源として有効活用（リユース、リサイクル）される廃棄物（紙、金属くず、ガラス瓶等）及び熱利用（サーマルリサイクル）される廃棄物（木くず、廃プラスチック等）の量

廃棄物の再資源化（リサイクル）量の推移



$$\text{再生資源化率}(\%) = \frac{\text{再生資源化量}}{\text{廃棄物発生量} - \text{内部減量化量}} \times 100$$

外部（最終）埋立処分量の推移



$$\text{処分率}(\%) = \frac{\text{外部埋立処分量}}{\text{外部再生資源化量} + \text{外部減量化量} + \text{外部埋立処分量}} \times 100$$

RC活動への取組

保安防災

保安防災訓練

当社では、火薬類及び危険物による災害発生の防止を重点目標とし、各種防災訓練を毎年計画を立てて積極的に実施しています。訓練内容は、地元消防署の支援を受けた消防訓練、自衛消防隊の緊急対応訓練、防災訓練、危険工室の緊急注水訓練等です。



消防訓練（江田島工場）

また、毎月1回の「安全の日」を活用した保安教育や設備の新設・改造時の安全審査会の開催、設備の定期点検、HHK（ヒヤリ・ハット・気がかり）提案活動などを継続して保安の確保に努めています。

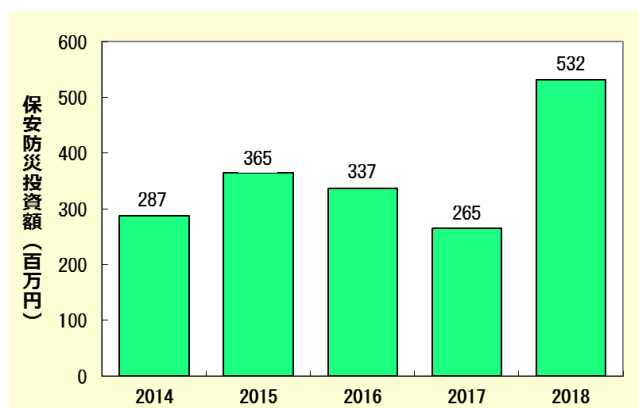


消防訓練（吉井工場）

保安防災投資

当社は火薬類を取り扱っているため、安全の確保が最も重要と考え、保安防災に対する投資を積極的に行っております。

2018年度は設備の老朽化対策、崖崩れ防止対策、危険物屋内貯蔵施設の整備、落雷対策等に売上高の5.7%を投資して、保安・防災面の充実を図りました。



■ 2018年度 保安防災投資額内訳 (百万円)

工場名称	保安防災投資内訳						投資額合計
	設備の老朽化対策	労働安全・作業環境改善	爆発・火災・漏えい等対策	地震等天災対策	基盤整備	その他	
江田島工場	125.8	35.9	5.4	269.9	16.4	3.5	456.9
吉井工場	64.9	6.0	1.8	0.0	0.0	2.6	75.3
合計	190.8	41.9	7.2	269.9	16.4	6.1	532.2

労働安全衛生

労働安全衛生活動

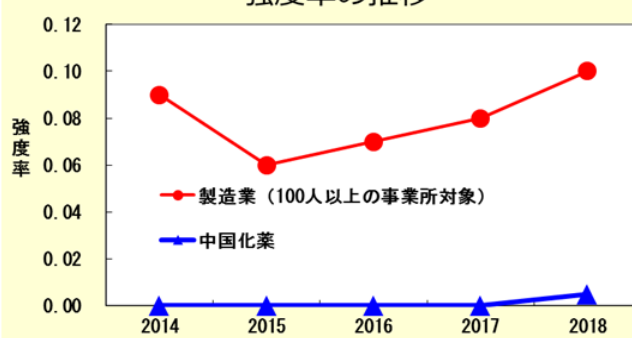
労働災害ゼロを目標に、HHK（ヒヤリ・ハット・気がかり）提案、KYT（危険予知訓練）、リスクアセスメントなどをツールとして安全活動に取り組んでいます。2018年度は1件の休業災害と、不休災害4件（赤チン災害）の計5件が発生しています。これらの災害に対して再発防止を図るとともに未然防止

を徹底し、無事故で操業できるよう努めています。また、従業員の健康の確保と安全で快適な職場の構築を目指し、工場長巡視などの各種職場巡視、作業環境測定、安全衛生委員会などを通して問題点を把握し、対策を図る活動も継続しています。

度数率の推移



強度率の推移



度数率及び強度率とは、労働災害の安全指標の一つで次の式で算出されます。

$$\text{度数率} = \frac{\text{労働災害の死傷者数} \times 1,000,000}{\text{延労働時間数}} \quad \text{強度率} = \frac{\text{労働損失日数}}{\text{延労働時間数}} \times 1,000$$

(※休業災害以上をカウント)

健康管理

従業員の心身の健康管理については、産業医による衛生講話、セクハラ・パワハラに関する教育及び苦情・相談窓口の設置、健康に関する集合教育等を行っております。メンタル

ヘルスケアについては上司による面接、社外セミナーへの参加、自己診断等を毎年行っています。このような活動により、従業員の心と体の健康維持・改善に取り組んでいます。



産業医による衛生講話（吉井工場）

RC活動への取組

物流安全

危険・有害性を有する製品の物流（輸送、荷役、保管）における事故を防止するために次のような活動を行っています。

- 輸送業者（協力会社）への法規制・取り扱う火薬類の性質等に関する定期的教育の実施
- 運搬時のイエローカードの携帯を確認
- 物流事故時の緊急連絡網などの対応体制の整備
- 工場内のハザードマップの作成

イエローカードとは

「輸送する化学物質の性質、危険性及び安全管理上の注意事項に加えて緊急時の措置方法、通報・連絡先が記載されているカード」のことです。

万一緊急事態が発生した時は、このカードを見て適切な措置をとることによって、災害の拡大や二次災害を防止します。

RC活動への取組

化学品・製品安全

化学品・製品による災害の防止

作業者が、製造工程において安全に取り扱うことができるようにするため、新規品、化学品及び製品の取扱い前に注意を要する

アイテムについてリスクアセスメントを実施し、必要があれば作業環境の改善を行うよう努めています。

製品の安全確保と品質保証

当社は、研究開発、技術開発において、より安全で環境負荷の少ない製品の開発に努めています。この一環として吉井工場では2007年度に品質マネジメントシステム（QMS）のISO9100、江田島工場

は2012年度にISO9001の認証を取得しました。また認証範囲を購買部門、営業部門にも広げ、全社をあげて品質保証に努めています。

関係者への環境・安全情報の提供

当社は、お客様に安心して製品を使用していただくために製品ごとにGHSに対応したSDS（安全データシート）を作成して配布しています。また、社内では従業員、

その他関係者が安全に化学物質を取り扱うために、購入品等の化学物質のSDSを入手し、データベース化して情報の共有化を図っています。

GHS（化学品の分類および表示に関する世界調和システム）とは

世界的に統一されたルールに従って、化学品を危険有害性の種類と程度により分類し、その情報が一目でわかるよう、ラベルで表示したり、安全データシートを提供したりするシステムのことで

サイト環境活動

江田島工場の活動

環境方針

- 環境方針
【人にやさしい環境作りをめざして】

- 基本指針

中国化薬(株)江田島工場は、火薬、爆薬、火工品、医薬品の製造から出荷までの生産活動を業務としています。当工場は、瀬戸内海に面している等の立地条件を認識し、その事業活動において生じる環境負荷の低減を図ります。



江田島工場長 内村 浩

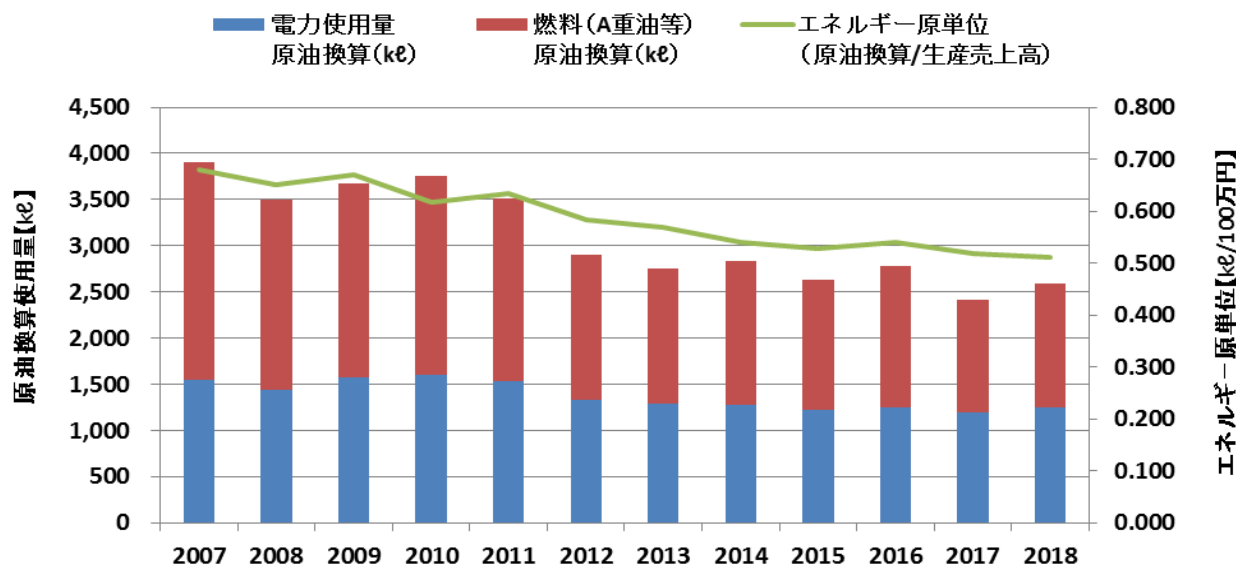
- 行動指針

1. 環境関連の法令、条例及び当工場が同意するその他の要求事項を把握し、これを順守するとともに、事故の未然防止及び汚染の予防に努めます。
2. 当工場は、全ての事業活動において環境影響評価を行い、著しい環境側面を特定することによって環境目的及び目標を設定し、次の活動を重点的に取り組みます。
 - (1) 排水の水質・水量の管理
 - (2) 省資源・省エネルギーの推進
 - (3) 有害物質の管理
 - (4) 廃棄物の再利用の促進
3. 環境マネジメントシステムの継続的改善を行うとともに、環境目的、環境目標の定期的な見直しを行います。
4. この環境方針は従業員及び構成員に対し周知できるように教育と啓蒙活動を行います。
5. この環境方針は社外に公表します。

サイト活動

- 省エネ活動

江田島工場は第一種エネルギー管理工場（原油換算使用量3,000kℓ以上）に指定されていますが、省エネ活動を継続することにより、7年連続して原油換算使用量3,000kℓ未満を達成しました。エネルギー原単位も順調に低減しています。



■ 環境・安全活動

江田島工場は、環境・安全の意識高揚のため、様々な活動を行っています。



EMS再認証審査を受けました。
(H30.7.3-6)



社長環境安全査察の様子です。
(H30.10.10、11)



消防防災訓練を行い、救護班がAEDの取扱方法
について消防署の指導を受けました。(H30.10.30)



フォークリフト運転技能評価講習を行いました。
(H31.1.28)

■ 地域社会とのつながり

江田島工場は、地域の委員会、諸会合への参加、地域イベントへの協賛を積極的に進め地域社会とのコミュニケーションに努めています。



江田島工場に献血車を受入れ、献血を行いました。
(H30.8.27)



江田島市消防競技大会に参加し消火器女子の部
で3度目の優勝を飾りました。(H30.10.19)



地元江田島市から善行表彰を受けました。
(H30.11.3)



西日本豪雨災害時、社用船により給水車を無償
で緊急搬送した功績を讃えられ中国運輸局長から
表彰を受けました。(H30.11.8)

吉井工場の活動

環境方針

■ 環境方針

「社会に調和した職場環境をめざして」

■ 基本指針

中国化薬（株）吉井工場は、火薬類を主体とした事業活動を行っており、その活動が地球環境と密接に関わりあっていることを認識し、吉井工場の全ての領域で、自然環境との調和を図り、地域社会の期待と信頼にこたえる環境先進企業を目指します。

■ 行動指針

1. 私たちは火薬類による災害が著しい環境破壊につながることを認識し、これの予防に努めます。また、吉井工場周辺の自然環境や地球温暖化が環境に及ぼす影響並びに環境破壊が生物多様性に及ぼす影響を認識し、以下の活動のもとに汚染の予防と環境保全に努めます。
 - (1) 大気、水質等の法規制及び吉井工場が同意するその他の要求事項を順守します。
 - (2) 火薬類が付着した廃棄物を外部に出さないという信念のもと、4R（Reduce, Recovery, Reuse, Recycle）の推進により、廃棄物排出量の削減に努めます。
 - (3) 資源及びエネルギーを使用して事業活動を行っていることを認識し、その有効利用を通じ、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
 - (4) 有害化学物質の無害物質への転換、使用量の削減により、環境に配慮した生産活動を行います。
 - (5) グリーン購買を推進し、環境にやさしい物品の購入に努めます。
2. 工場美化運動及び地域奉仕活動を通じて自然環境との調和、地域住民との融和を図ります。
3. 定期的な環境マネジメントシステム監査及びマネジメントレビューにより、システムの継続的改善を図ります。

この環境方針は、吉井工場の従業員及び吉井工場で働く全ての人々に周知徹底を図るとともに、会社ホームページに掲載し、一般の人々が入手可能にし、外部の利害関係者から要求があった場合は、すみやかに提供いたします。

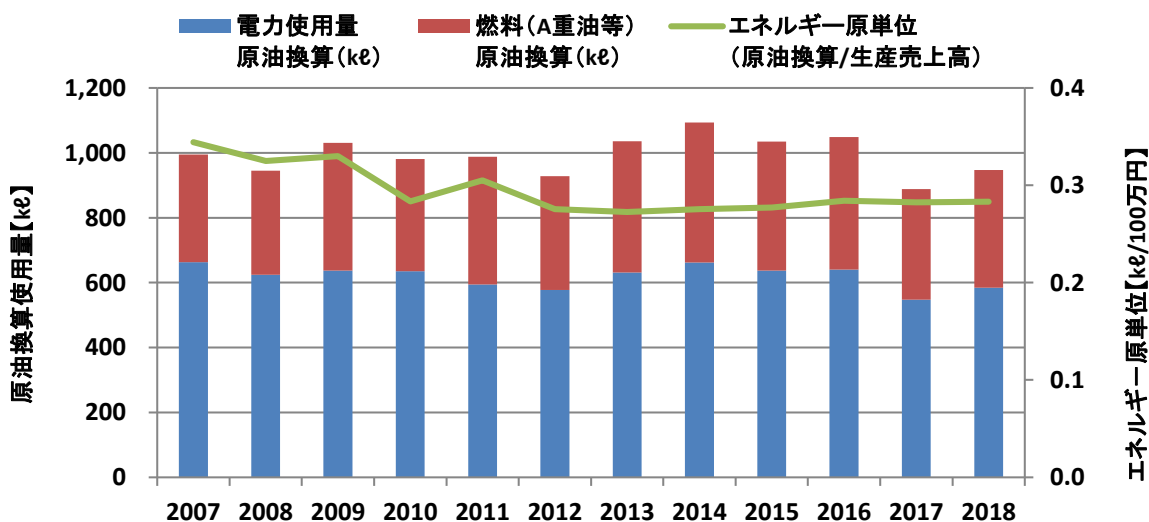


吉井工場長 門脇 貴志

サイト活動

■ 省エネ活動

吉井工場はエネルギーの効率化・無駄の排除を積極的に実施し、継続的な省エネ活動を推進しています。その結果、売上げに対するエネルギー使用量の比率であるエネルギー原単位を過去に比較して低いレベルで維持しています。



■ 環境・安全活動



万一の環境事故に備え、緊急対応訓練を毎年実施しています。



万一の災害に備え、避難訓練を毎年実施しています。

■ 物流安全



火薬類の運送を委託する会社の運転手に対し、教育を毎年実施しています。



火薬類の運送時には、積み荷の性質や事故での対処法などを記載したイエローカードを必ず運転手に手渡しています。

■ 地域社会とのつながり



ボランティアとして年3回献血に協力しています。



定期的に工場周辺の道路・河川・神社等の清掃活動を実施しています。

【お問い合わせ先】

中国化薬株式会社 総務管理部

〒737-8507 広島県呉市天応塩谷町1-6

TEL 0823-38-1111、 FAX 0823-38-7128

中国化薬株式会社 江田島工場 安全環境管理室

〒737-2121 広島県江田島市江田島町小用5-1-1

TEL 0823-43-0121、 FAX 0823-44-1738

中国化薬株式会社 吉井工場 安全環境管理室

〒370-2131 群馬県高崎市吉井町岩崎2530

TEL 027-388-2665、 FAX 027-388-2612